

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成24年3月8日 (2012.3.8)

【公開番号】特開2010-259843(P2010-259843A)
 【公開日】平成22年11月18日 (2010.11.18)
 【年通号数】公開・登録公報2010-046
 【出願番号】特願2010-186127(P2010-186127)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 3
 A 6 3 F 7/02 3 1 1 B
 A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z
 A 6 3 F 7/02 3 1 7
 A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】
 【提出日】平成24年1月25日 (2012.1.25)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

遊技領域に遊技球を打込むことにより遊技が行なわれ、各々が識別可能な複数種類の識別情報の変動表示を行なって表示結果を導出表示する変動表示装置と、遊技者にとって有利な第 1 の状態と該第 1 の状態に比べて遊技者にとって不利な第 2 の状態とに変化する可変入賞球装置とを備え、前記変動表示装置における前記識別情報の変動表示の表示結果が所定の特定表示結果となったときに、所定の始動態様で前記可変入賞球装置を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態に制御し、前記可変入賞球装置に進入した遊技球が特定進入領域に進入したことに基づいて、遊技者に有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、

前記可変入賞球装置に設けられ、前記特定進入領域に遊技球が進入しやすい高進入状態と、該高進入状態に比べて前記特定進入領域に遊技球が進入しにくい低進入状態とに変化する振分手段と、

前記可変入賞球装置内に進入した遊技球を検出する進入検出手段と、

前記可変入賞球装置外へ排出される遊技球を検出する排出検出手段と、

前記振分手段を制御する振分制御手段と、

前記可変入賞球装置を前記第 1 の状態および前記第 2 の状態に制御する可変入賞球装置制御手段と、

前記変動表示の表示結果を、前記特定表示結果のうち第 1 の特定表示結果とするか、前記特定表示結果のうち第 2 の特定表示結果とするか、前記特定表示結果以外の表示結果とするかを決定する表示結果決定手段と、

前記進入検出手段による検出と前記排出検出手段による検出とに基づき、前記可変入賞球装置内に進入した遊技球が前記可変入賞球装置内に存在するか否かを判定する判定手段と、

前記可変入賞球装置制御手段により前記可変入賞球装置が前記第 2 の状態から前記第 1 の状態に制御された後、前記判定手段により前記可変入賞球装置内に遊技球が存在しないと判定されるまで、遊技を停止する遊技停止手段とを含み、

前記振分制御手段は、前記変動表示装置に前記第 1 の特定表示結果または前記第 2 の特定表示結果が導出表示されてから所定の振分変化待機時間が経過したときに前記振分手段を前記高進入状態に変化させ、

前記可変入賞球装置制御手段は、前記変動表示装置に前記第 1 の特定表示結果が導出表示されてから第 1 の始動待機時間が経過したときに前記可変入賞球装置を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態に変化させ、前記変動表示装置に前記第 2 の特定表示結果が導出表示されてから前記第 1 の始動待機時間よりも長い第 2 の始動待機時間が経過したときに前記可変入賞球装置を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態に変化させることを特徴とする、遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1) 遊技領域(遊技領域 41)に遊技球(打球)を打込むことにより遊技が行なわれ、各々が識別可能な複数種類の識別情報(特別図柄)の変動表示を行なって表示結果を導出表示する変動表示装置(特別図柄表示装置 44a)と、遊技者にとって有利な第 1 の状態(開放状態)と該第 1 の状態に比べて遊技者にとって不利な第 2 の状態(閉鎖状態)とに変化する可変入賞球装置(第 1 特別可変入賞球装置 66)とを備え、前記変動表示装置における前記識別情報の変動表示の表示結果が所定の特定表示結果(第 1 小当り表示結果、第 2 小当り表示結果)となったときに、所定の始動態様(第 1 特別可変入賞球装置 66 の開閉片 81 を回動させて開口部 82 を開放する態様)で前記可変入賞球装置を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態に制御し(図 19 の SP06、図 20 の SP24)、前記可変入賞球装置に進入した遊技球が特定進入領域(第 1 特定進入口 89、第 2 特定進入口 91、第 1 特定球検出器 121a、第 2 特定球検出器 121b)に進入したことに基づいて、遊技者に有利な特定遊技状態(第 2 特別可変入賞球装置 48 の開閉板 49 を駆動させて開放する大当り遊技状態)に制御する(図 10 の SD07 ~ SD09)遊技機(パチンコ遊技機 1)であって、

前記可変入賞球装置に設けられ、前記特定進入領域に遊技球が進入しやすい高進入状態(第 2 振分状態、図 2 の状態参照)と、該高進入状態に比べて前記特定進入領域に遊技球が進入しにくい低進入状態(第 1 振分状態、図 3 の状態参照)とに変化する振分手段(振分部材 83、振分用ソレノイド 108)と、

前記可変入賞球装置内に進入した遊技球を検出する進入検出手段(排出球検出器 122、図 21 の SR13)と、

前記可変入賞球装置外へ排出される遊技球を検出する排出検出手段(排出球検出器 122、図 21 の SR13)と、

前記振分手段を制御する振分制御手段(遊技制御用マイクロコンピュータ 99、図 19 の SP11、図 20 の SP18)と、

前記可変入賞球装置を前記第 1 の状態および前記第 2 の状態に制御する可変入賞球装置制御手段(遊技制御用マイクロコンピュータ 99、図 18 の SM08 ~ SM13、図 19 の SP03 ~ SP06、図 20 の SP21 ~ SP24)と、

前記変動表示の表示結果を、前記特定表示結果のうち第 1 の特定表示結果(第 1 小当り表示結果)とするか、前記特定表示結果のうち第 2 の特定表示結果(第 2 小当り表示結果)とするか、前記特定表示結果以外の表示結果とするかを決定する表示結果決定手段(遊技制御用マイクロコンピュータ 99、図 17 の SL01 ~ SL15)と、

前記進入検出手段による検出と前記排出検出手段による検出とに基づき、前記可変入賞球装置内に進入した遊技球が前記可変入賞球装置内に存在するか否かを判定する判定手段(遊技制御用マイクロコンピュータ 99、図 20 の SP27)と、

前記可変入賞球装置制御手段により前記可変入賞球装置が前記第 2 の状態から前記第 1

の状態に制御された後、前記判定手段により前記可変入賞球装置内に遊技球が存在しないと判定される（図20のSP27においてYES）まで、遊技を停止する遊技停止手段（遊技制御用マイクロコンピュータ99、図20のSP27、SP33（SP27により残存玉数が0であると判断されるまでSP30、SP33による特別図柄プロセスフラグの更新をしないことにより遊技が停止する））を含み、

前記振分制御手段は、前記変動表示装置に前記第1の特定表示結果または前記第2の特定表示結果が導出表示されてから所定の振分変化待機時間（図23の振分・貯留待機時間T5）が経過したときに前記振分手段を前記高進入状態に変化させ（図18のSM14、図19のSP10、SP11、図23）、

前記可変入賞球装置制御手段は、前記変動表示装置に前記第1の特定表示結果が導出表示されてから第1の始動待機時間（図23の第1始動待機時間T3）が経過したときに前記可変入賞球装置を前記第2の状態から前記第1の状態に変化させ（図18のSM09、図19のSP04、SP06、図23）、前記変動表示装置に前記第2の特定表示結果が導出表示されてから前記第1の始動待機時間よりも長い第2の始動待機時間（図23の第2始動待機時間T4）が経過したときに前記可変入賞球装置を前記第2の状態から前記第1の状態に変化させる（図18のSM12、図19のSP05、SP06、図23）。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

このような構成によれば、可変入賞球装置において、特定進入領域に遊技球が進入しやすい高進入状態と、その高進入状態に比べて特定進入領域に遊技球が進入しにくい低進入状態とに変化する振分手段が設けられている。そして、変動表示装置の表示結果に基づいて遊技球の受入れやすさが変化する可変入賞球装置に受入れられた遊技球が、振分手段により振分けられた後、特定進入領域に進入したことに基づいて、遊技者に有利な特定遊技状態に制御される。これにより、変動表示装置を用いた遊技を行ないながらも、可変入賞球装置内での遊技球の挙動に基づいた遊技の面白みを実現させることができる。さらに、変動表示の表示結果が特定表示結果のうち第1の特定表示結果となったときと、第2の特定表示結果となったときとで、振分手段を高進入状態に変化させるタイミングを同じ振分変化待機時間が経過したときとし、可変入賞球装置を第2の状態から第1の状態に制御するタイミングを、時間の長さが異なる始動待機時間が経過したときとすることにより、変動表示の表示結果が所定表示結果のうち第1の表示結果となったときと、第2の表示結果となったときとで、可変入賞球装置を第2の状態から第1の状態に変化させる制御タイミングと、振分手段を高進入状態に変化させる制御タイミングとの相関関係が異なる。これにより、変動表示の表示結果が第1特定表示結果となったときと、第2特定表示結果となったときとで、表示結果が表示された後に遊技者が可変入賞球装置の動作態様に対して同様のタイミングで遊技球を打込んでも、可変入賞球装置への遊技球の進入割合と、特定進入領域への遊技球の進入割合とがそれぞれ異なるようになるので、遊技が単調とならないようにすることができる。さらに、可変入賞球装置へ進入したが未だ排出されていない遊技球が存在する異常な状態を発生させて行なわれる不正行為を防止することができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 1
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 2
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 3
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 4
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 0】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 5
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 6
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 7
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 8
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 1 9
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正 1 5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】削除
【補正の内容】